

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	後期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・井村 弘子	1 年	井村弘子 h.imura@okiu.ac.jp 平山篤史 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ①家族関係など集団の関係性、地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を学ぶ。 ②グループアプローチによる集団への相談・助言・指導の実践を学ぶ	メッセージ 前半8回を平山、後半8回を井村が担当する。 公認心理師が勤務する臨床現場では、一対一の個別的対応だけでなく、家族、グループ、組織、コミュニティなど集団を見立てて対応することも求められてくる。集団を見立てる理論的枠組みを学び、集団にどう対応する技術を身につけてほしい。
	到達目標 ①家族関係をはじめとした集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論を理解する。 ②家族関係をはじめとした集団の関係性に焦点を当てた心理支援の技法を習得する。 ③地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論を理解する。 ④地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する方法を理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・コミュニティアプローチの理論	コミュニティアプローチ理論復習
	2	グループアプローチの理論	グループアプローチの理論復習
	3	セラピューティックアクティビティー（情動活性化と対人交流を目的として）の実践	実践プログラム企画
	4	セラピューティックアクティビティーの実践についてのスーパーヴィジョン	スーパーヴィジョン振り返り
	5	グループミーティング（新たな気づきと共有体験を目的として）の実践	実践プログラム企画
	6	グループミーティングの実践についてのスーパーヴィジョン	スーパーヴィジョン振り返り
	7	SST（ソーシャルスキルの習得を目的として）の実践	実践プログラム企画
	8	心理劇を用いた自己理解と他者理解の技法の実践	リフレクションシート作成・復習
	9	家族心理学の今日的テーマ	リフレクションシート作成・復習
	10	家族を理解するための鍵概念	リフレクションシート作成・復習
	11	家族システム理論	リフレクションシート作成・復習
	12	家族の発達と多世代理論	リフレクションシート作成・復習
	13	家族関係への心理的援助	リフレクションシート作成・復習
	14	家族療法の実践	リフレクションシート作成・復習
	15	まとめ	リフレクションシート作成・復習
	16	試験	試験勉強
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など ①グループサイコセラピー アーヴィン・D. ヤーロム 川室優（訳） 金剛出版 ②「グループの心理臨床」臨床心理学第4巻4号 金剛出版 ③「グループの現在」臨床心理学第9巻6号 金剛出版 ④中金・野末・布柴・無籐「家族心理学」有斐閣 2008 ⑤中金洋子「家族のための心理援助」金剛出版 2008 ⑥中金洋子「個人療法と家族療法をつなぐ」東京大学出版会 2010		
	学びの手立て 臨床心理領域で設定されているそれぞれの科目を学内外の実習と結び付け、常に実践を意識して学んでほしい。		
	評価 ①グループワーク実習及びディスカッションへの取り組み・振り返りレポート 25% ②グループスーパーヴィジョンを受けての振り返りレポート25% ③試験 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床心理学領域の各専門科目をはじめ、学内外の実習、臨床心理事例検討の実践につながる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	教育分野に関する理論と支援の展開	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-牛田 洋一	1 年	講義の前後の時間およびE-mailにて受け付けています	

学びの準備	ねらい 現在の学校における臨床心理学的支援は、スクールカウンセラーがその中心にいます。スクールカウンセラーは臨床心理士の活躍の場として大きな位置を占めています。本講座では学校臨床で問題なるテーマを取り上げ、支援にすぐに役立つ実践家の知識を習得していくこと	メッセージ 自由で活発な議論の場を提供していきたいと思います。
	到達目標 講義の中では限定されたテーマで議論を重ねていきますが、テーマに対する理解だけではなく、各自がテーマに関する発表の準備と議論を重ねていく過程のなかで、今後の学校心理臨床実践の場で、すぐに役立つ人材になることを目指します。	

学びの実践	<div> <div>学びのヒント</div> <div>授業計画</div> </div>		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の目的・役割分担など	
	2	教育分野での今日的課題：不登校の理解と支援	文献検索と課題発表の準備
	3	教育分野での今日的課題：不登校の理解と支援	同上
	4	教育分野での今日的課題：いじめの理解と支援	同上
	5	教育分野での今日的課題：いじめの理解と支援	同上
	6	教育分野での今日的課題：緊急支援の理解と方法	同上
	7	教育分野での今日的課題：緊急支援の理解と方法	同上
	8	教育分野での今日的課題：発達障害の理解と支援	同上
	9	教育分野での今日的課題：発達障害の理解と支援	同上
	10	教育分野での今日的課題：ストレスマネジメントの実際	同上
	11	教育分野での今日的課題：アンガーマネジメントの実際	同上
	12	教育分野での今日的課題：その他の問題（自傷行為などその他の問題）	同上
	13	事例検討（１）	文献検索など議論のための準備
	14	事例検討（２）	同上
	15	教育分野における理論と支援の展開総括	同上
	16	試験（口頭試問）	発表・議論を合わせて評価
	<div> <div>テキスト・参考文献・資料など</div> <div>それぞれのテーマに沿って適宜紹介します。入手困難の文献については印刷配布します。また、各自が発表テーマに沿った文献を検索し、講義の中で紹介してください。</div> </div>		
	<div> <div>学びの手立て</div> <div>各自がテーマに沿った知見を検索、検討しレジュメを作成し発表して頂きます。各自の発表に対して、受講者同士の積極的な議論を望みます。大学院では自ら積極的にテーマを追求していく姿勢が求められます。</div> </div>		
	<div> <div>評価</div> <div>各自の発表・議論への参加（７０％） 最終の口頭試問（３０％）</div> </div>		

学びの継続	<div>次のステージ・関連科目</div> <div>教育分野で役に立つ臨床心理の専門家となるためには、本講座でのテーマのみならず、臨床心理学、心理学全般の知識を広く身に付けていくことがいくことが必要となります。</div>
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	高齢者福祉特論	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-保良 昌徳	1 年	・ 講義の中で受け付ける ・ オフィスアワー時の相談を歓迎する	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	老年期における心身の変化、生活や社会的地位等について理解を深め、古今の老年期に対する考え方や地位・役割等について考察し、今後の老年期のあり方や高齢社会のあり方等について考える。	受講生には、日頃から老年期における心身の変化や社会生活に関心を持ち、その社会的地位・役割、あるいはその主観的世界について自らの考えを整理しておくことを期待する。		
学びの実践	到達目標			
	① 老年期の心身の変化について理解を深める。 ② 老年期の主観的世界等について考察する。 ③ 老年期の地位・役割、期待される生き方等について考察する。 ④ 老年心理学や老年社会学等の学問的な知見等を概観し理解を深める。 ⑤ 広く内外の文献に示された老年期のあり方について考察し理解を深める ⑥ 自分なりの老年観、福祉（Wellbeing）観をまとめる			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション（受講に向けての準備・確認事項・注意点など）	講義の趣旨・心得・課題等の理解	
	2	老年期の心身の変化（老年期に関する概論的理解）	老化現象の概論的理解	
	3	老年心理学の知見・動向について	老年期の心理・知能等の理解	
	4	老年社会学の知見・動向につい	老年期の地位・役割等の理解	
	5	老年期の特徴（多世代との比較から）	青年期・壮年期・老年期の比較	
	6	前半の振り返りとまとめ	老年期についての整理	
	7	稲永和豊著『知的巨人たちの晩年』に学ぶ	近現代における老年期の諸相	
	8	キケロ『老年期の豊かさについて』に学ぶ	古代ストア派の老年観	
	9	アラン『成熟のための心理童話』に学ぶ	ユング派の老年観の理解	
	10	ヘルマンヘッセ『人は成熟するにつれて若くなる』に学ぶ	若さ・豊かさ・生きる意味とは	
	11	井上勝也『老年心理学』に学ぶ	若者への配慮・老年と死	
	12	法律「老人福祉法」その他を読む	福祉施策における高齢者の位置	
	13	死をめぐる諸相・老年期の死に関する緒論	死の医学・哲学等からの考察	
	14	後半の振り返り・まとめ	学びのポイント・疑問等の整理	
	15	まとめ「新しい時代における高齢期のあり方について」	まとめと示された課題等の理解	
16	レポート提出	レポートの戻出		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など			
	① 講義に必要な資料は、講義ごとに配布する。 ② 必要に応じて参考文献等を提示する。 ③ 受講生からの資料も、必要に応じ積極的に活用する。			
	学びの手立て			
学びの実践	① 受講生は、日頃から老年期のあり方について関心を持ち、情報収集に努めること ② 示された文献等については、事前に目を通しておくこと ③ その他、必要事項については講義の中で提示する			
	評価			
	① 評価は、受講状況（事前準備等）25%、受講態度（意見・発言内容等）25%、レポート内容50% とする。 ② 遅刻は、2 回を 1 回の欠席に換算する。 ③ 欠席が 3 分の 1 を超えた場合は、①に内容に関わらず「不可」とする。			
学びの継続	次のステージ・関連科目			
	講義での学びをもとに、さらに老年期について関心を持ち、研究活動に参加し、ひいては高齢者の生活の福祉向上に寄与する人材が生まれることを期待する。			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心の健康教育に関する理論と実践	前期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-滝 友秀	1 年	授業終了後、またはメールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>心理の専門家として社会で活動する際に、対象は精神的な問題を抱えている方々とは限りません。問題を抱えている方への治療的な関わりだけでなく、問題を抱えていない方々への予防的な関わりも社会的なニーズとして増えてきています。そのよう社会的要請に心の専門家として応えていくためにも、心の健康について理解を深め、健康教育を実践できることが必要と考えます。</p>	<p>心理学の学びには、一つだけの正解はないものだと思っています。常により良い答えや方法など模索し続けることが苦しくもあり、楽しい部分だと思っています。模索するためにも、まずは先人の知恵を理解するための学習が必要だと思っています。その知識をもとに、様々な状況でどのように考え・対処してゆくかを皆さんと一緒に模索出来たらと思っています。</p>
到達目標	<p>・心が健康であるとはどのような状態か”を理解し他者に説明できるようになる。</p> <p>・心の健康に寄与する諸理論（カウンセリング心理学・コミュニティ心理学など）の理解、心を健康を維持するために必要な知識や技法（ストレス対処技法など）を理解し、それらを他者に教育出来るような方略を考えることが出来る。</p> <p>・日々の生活を送る上でどのような時期にで不適応を呈しやすいかを理解し、それらを適応的に乗り越えられるための対処方法を考えるこ</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p>		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	今後の講義概要と流れの説明	
	2	第2～4週：心の健康教育とは（以下の内容を行う予定）	
	3	心の健康とは何か	
	4	心の健康教育を行う意義について	
	5	第5～8週：心の健康教育に関する理論の理解（以下の内容を行う予定）	
	6	カウンセリング心理学の理解	
	7	コミュニティ心理学の理解	
	8	学校心理学の理解	
	9	第9～13週：心の健康教育の内容（以下の内容を行う予定）	
	10	ストレスとストレスマネジメントの理解	
	11	ストレス対処方法の理解	
	12	ストレス関連障害について	
	13	発達課題やライフイベントについて	
	14	第14～15週：心の健康教育の実践について（以下の内容を行う予定）	
	15	集団を扱うことについて	
	16	試験日	
学びの手立て	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書の購入などは必要ありません。必要な書籍・文献などあれば、適宜お伝えします。</p>		
	<p>各人が考えたことや感じたことなどを積極的に言語化して頂けたらと思っています。それらの意見をもとにお互いの意見や考えを深めていけたら良いと考えています。</p> <p>講義は心の健康教育に関してですが、様々な分野に関連している内容を学ぶことになると思います。それぞれの関連領域に関して、ご自身で文献などを調べて頂くと、より講義でお伝えした内容の理解が深まると思います。</p> <p>欠席する際は事前にご連絡頂くようお願いします。</p>		
	<p>評価</p> <p>講義への出席状況を平常点とします。（15%）</p> <p>必要に応じてレポートなどを出して頂く予定です。（35%）</p> <p>レポートでは様々な文献を調べ、その上でどのように考えたか・理解したかをまとめて下さい。</p> <p>講義の最後には、講義内容を踏まえた試験を行います。（50%）</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>（１）関連科目等について 関連科目：学校現場に関する講義、心理支援に関する講義 上位科目：精神医学・心身医学に関する講義、心理実践実習</p> <p>（２）次のステージ 実際の臨床場面で、これらの知識を活かして経験を積んで頂けると幸いです</p>

※ポリシーとの関連性 公認心理師取得のための、必修の授業となります

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	後期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	1 年	ptt510@okiu.ac.jp 又は授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 産業組織心理臨床に関する施策や法令、指針を学び、心理職に対する社会のニーズを理解する。産業組織心理臨床の支援内容や方法を理解し、心理職の組織への関り方について学ぶ。	メッセージ 産業組織心理臨床は、今後さらにニーズが高まる領域です。今後、皆さんには公認心理師又は臨床心理士として産業組織領域で活躍してほしいです。
	到達目標 本科目を履修することで、産業組織心理臨床に必要な理論と実践を学ぶことができる。さらに、産業・労働分野に関わる公認心理師又は臨床心理士に必要な理論と支援内容・方法、今日的課題とその方法を学習することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業・労働分野に関する理論：社会背景及び産業心理臨床に求められるもの	配布資料の熟読と復習
	2	産業・労働分野に関する理論：労働関係法令・施策・指針	配布資料の熟読と復習
	3	産業・労働分野に関する理論：背景となる理論・モデル	配布資料の熟読と復習
	4	産業・労働分野に関する理論：支援現場と活動内容	配布資料の熟読と復習
	5	産業・労働分野での支援の内容及び方法：個人アセスメント（キャリア開発含む）	配布資料の熟読と復習
	6	産業・労働分野での支援の内容及び方法：ストレスチェック制度と心理職の役割	ストレスチェック
	7	産業・労働分野での支援の内容及び方法：産業保健スタッフとの連携・関係機関へのリファラー	配布資料の熟読と復習
	8	産業・労働分野での支援の内容及び方法：組織へのアプローチ・予防アプローチ	配布資料の熟読と復習
	9	産業・労働分野での支援の内容及び方法：従業員支援プログラム（EAP）	EAPについて
	10	産業・労働分野での今日的課題とその対応：障害者雇用・就労支援	配布資料の熟読と復習
	11	産業・労働分野での今日的課題とその対応：ハラスメント対応	配布資料の熟読と復習
	12	産業・労働分野での今日的課題とその対応：自殺予防と危機介入	ハラスメント研修又は自殺予防研修
	13	心理職が行うハラスメント研修と自殺予防研修	配布資料の熟読と復習
	14	具体的支援例：組織に対するコンサルテーション	配布資料の熟読と復習
	15	具体的支援例：事例検討	配布資料の熟読と復習
	16	まとめ	
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。 参考資料： 新田泰生、足立智昭（2016）「心理職の組織への関り方」誠信書房（税抜2,000円） 木村周（2010）「キャリア・コンサルティング理論と実践」社団法人雇用問題研究会 ジェームス M オハリー編 内山喜久雄・島悟 監訳（2005）「EAPハンドブック」株式会社フィスメック		
	①履修の心構え 配布資料を熟読し、授業の中で質問と意見を積極的に述べること。 ②学びを深めるために 講義学んだキーワードを再度調べて再学習すること。 学んだことをレポートにまとめ、発表すること。		
	評価 レポートの提出（70％）、受講態度30％		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会状況の変化と組織のニーズを把握して、今後も産業組織心理臨床を学んでほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 公認心理師養成の一環として、司法・犯罪分野の実践を学ぶ。

〔一般講義〕

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	後期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山入端 津由	1 年	E-mail tyamanoha@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	<p>非行・犯罪のある者に対する的確な鑑別診断技法の学習及び心理教育・臨床心理学的援助技法の習得を目指す。</p>	<p>日常的に社会で発生している多様な犯罪・非行について、これらを理解するための理論を学び、実際の事例を用いた面接資料、心理テスト結果、行動観察資料などを用いて、犯罪・非行のある者の資質鑑別を行い、その技能修得を目標とする。今日、臨床心理士には、犯罪・非行の適切な見立てと対応方針の策定が求められている。</p>
	到達目標	
	<p>①わが国の犯罪事情、刑事政策（警察、検察、司法、矯正、保護）について知る。②犯罪・非行の心理学の理論を理解する。特に、暴力犯罪（性犯罪も含む）の理論と分析の仕方を学ぶ。また、ストレスと犯罪機制モデル、ホワイトカラー犯罪の分析モデル、など理論理解の上で、資質鑑別法について学ぶ。③犯罪・非行のある者に対する臨床心理学的支援方法について学ぶ。④精神鑑定の方法について、事例を中心に学ぶ。総じて、臨床心理士としての社会活動上、犯罪・非行のある者に対する理解と支援の基礎的な考え方と技能を身につけて、犯罪・非行臨床領域における臨床心理学的な有効な活動ができるような手法の修得を到達目標とする。</p>	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	犯罪研究文献の講読
	2	非行・犯罪理論と非行・犯罪臨床	犯罪・非行理論の事前学習
	3	社会と個人の相互作用過程における犯罪・非行分析	犯罪・非行理論の事前学習
	4	非行・犯罪心理学と刑事政策（警察、検察、司法、矯正、保護）	平成27年版犯罪白書の事前講読
	5	資質鑑別の手続きと鑑別方法（半構造化面接、心理テストバッテリー）	臨床面接法の事前学習
	6	資質鑑別と心理テスト法（ロールシャッハ、SCT、PFスタディ、バウムテスト）	心理テストの事前学習
	7	資質鑑別事例の検討①	資質鑑別事例（宿題）の検討
	8	資質鑑別事例の検討②	資質鑑別事例（宿題）の検討
	9	資質鑑別事例の検討③	資質鑑別事例（宿題）の検討
	10	資質鑑別事例の検討④	資質鑑別事例（宿題）の検討
	11	資質鑑別事例の検討⑤	資質鑑別事例（宿題）の検討
	12	犯罪の少年年齢曲線と青少年の脳科学知見	青少年の脳科学文献の講読
	13	薬物依存と集団精神療法	自助グループ関連の文献講読
	14	精神鑑定Ⅰ	精神鑑定文献（指定文献）の講読
15	精神鑑定Ⅱ	精神鑑定文献（指定文献）の講読	
16	まとめの討議及び総合評価		
テキスト・参考文献・資料など			
参考文献 1 大淵憲一 2010 犯罪心理学 培風館 2 大淵憲一 2016 紛争・暴力・構成の心理学 北大路書房 3 大淵憲一（編）犯罪理論 4 細江達郎 2012 図解犯罪心理学 ナツメ社 5 林幸司 2001 精神鑑定実践マニュアル 金剛出版			
学びの手立て			
①事例分析については、個人資料を扱うので、個人情報の守秘義務を遵守すること。②面接法、生活史分析、事例分析、質的分析、心理テスト分析の各分析法の基本点を修得する。③集団討議を中心に講義を展開する。発言内容、回数なども評価の対象とする。			
評価			
「鑑別事例の検討」（5回）については、毎回、「鑑別」レポートの提出を義務づけ、これを評価する。なお、評価得点の配分割合は、レポート70パーセント、討議における発言内容と回数を30パーセントとする。			

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
	資質鑑別法に関連して、他の臨床心理学科目も関連させて学ぶこと。

科目基本情報	科目名 社会心理学特論	期 別 集中	曜日・時限 集中	単 位 2
	担当者 -加藤 潤三	対象年次 1 年	授業に関する問い合わせ	
	学びの準備	ねらい	メッセージ	
到達目標				
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	テキスト・参考文献・資料など			
	学びの手立て			
	評価			
学びの継続	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会福祉原理特論	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘・知名 孝・桃原 一彦	1 年	小柳mkoyanagi@okiu.ac.jp知名takashic@okiu.ac.jp桃原toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 調査法を含む研究方法の原理的検討を行うとともに、社会福祉の原理を理論と実践の両面から検討する。	メッセージ 「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。
	到達目標 調査法を含む研究方法の原理的な枠組みについて説明ができる。 社会福祉の原理について理論と実践の両面から多面的な検討と自説の展開ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	科目のねらい、構成について（小柳）	シラバスの検討
	2	批判的なコメントの技法（１） 石橋涼子「子供、医療、ケア」を素材に（小柳）	発表レジュメの作成
	3	批判的なコメントの技法（２） 石橋涼子「子供、医療、ケア」を素材に（小柳）	発表レジュメの作成
	4	批判的なコメントの技法（３） 石橋涼子「子供、医療、ケア」を素材に（小柳）	発表レジュメの作成
	5	葛藤・矛盾からの出発 ソーシャルワークの経験 尾崎新編『現場のちから』より（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	6	虚々実々のなかの育ちあいー現場の力（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	7	「対話」の力と社会福祉実践（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	8	かかわりを継続する力（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	9	質的研究・オープンコーディングとラベリングによる分析（１）（知名）	山根論文を読みレジュメ作成
	10	質的研究・オープンコーディングとラベリングによる分析（２）（知名）	中田論文を読みレジュメ作成
	11	質的研究・TEMS/TEAによる分析（１）（知名）	論文を読みレジュメ作成
	12	質的研究・TEMS/TEAによる分析（２）（知名）	論文を読みレジュメ作成
	13	ソーシャルワークの理論について考える（１）機能主義・力動主義的ソーシャルワーク論（知名）	論文を読みレジュメ作成
	14	ソーシャルワークの理論について考える（２）システムズ理論・行動変容理論（知名）	論文を読みレジュメ作成
	15	ソーシャルワークの理論について考える（３）ナラティブアプローチ（知名）	論文を読みレジュメ作成
	16	自己決定を尊重する現場の力 尾崎新編『現場のちから』より（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	17	老いとケアの現場の構造分析（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	18	社会福祉実習教育における現場の力ー「普通」「常識」を問い返す磁場と学生の変容（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	19	「変幻自在なシンフォニー・共同体という現場の共同体験」（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	20	現場の力ー生活の場において気づく援助のあり方とその気づきを得て変化する関係（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	21	現場からソーシャルワークを考える（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	22	現場の力ー「ゆらぐことのできる力」と「ゆらがいない力」（小柳）	発表レジュメ、特定質問の準備
	23	社会調査の企画と設計（桃原）	社会調査の種類について調べる
	24	社会調査と研究倫理（桃原）	調査の倫理的問題の事例を調べる
	25	研究方法とデータ収集法との論理的関係（桃原）	修士論文の論理展開を考える
	26	学術情報ネットワークの活用術（桃原）	学術情報の検索・収集の実践
	27	量的調査（１）概念構成・仮説提示から変数構築に向けて（桃原）	キー概念の構築
	28	量的調査（２）調査票の作成方法・ワーディング等の基本ルール（桃原）	調査票作成の実践
	29	量的調査（３）対象者・フィールドの選定法とサンプリングの理論と技法（桃原）	サンプリングの実践
	30	量的データの整理(桃原)	データ整理の基本を実践
	31	まとめのレポートについて（小柳）	まとめのレポートの作成

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小柳『「現場」のちから—社会福祉実践における現場とは何か』 知名『TEA理論編 TEA実践編』、『ひきこもりはなぜ「治る」のか?』『ソーシャルワーク理論を学ぶ人のために』『日常性とソーシャルワーク』『ナラティブの臨床社会学』、Nurturing Hidden Resilience in Troubled Youth 桃原『社会調査へのアプローチ』</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>この科目における原理的な考察を自身の研究課題とすりあわせて検討する。</p>
	<p>評価</p> <p>①授業中の発表／報告・議論／質疑／コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価60%、②時間外に作成したレジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価40%</p> <p>＊科目担当者3名がそれぞれ評価し、担当時間の割合に応じて総合し科目の評価とする。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>人間福祉特論、人間福祉特殊研究Ⅰ</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会福祉制度特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-Fransie J. Julien-Chinn	1 年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	障害者福祉特論	後期	火 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1 年	毎回の講義終了後に受付けます。	

学びの準備	ねらい 国内外の障害者施策の歴史的発展プロセスを踏まえた上で、障害学の研究成果を学び、議論を深める。受講生の関心に合わせた文献も取り扱う。	メッセージ 障害・障害者の理解に向けて学術的取組みをする。
	到達目標 障害学に関する主要論文を多数読むことができる。障害学の視点から社会を問い直すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	障害学の成り立ち	配布資料を読む
	3	障害学の発展	「障害学研究」を分析する
	4	障害学の特徴	個別発表の準備
	5	基本論文購読、ディスカッション①	個別発表の準備
	6	基本論文購読、ディスカッション②	ミニレポートの作成
	7	基本論文購読、ディスカッション③	関心テーマの文献検索をする
	8	障害学の関心テーマを発表する	関心テーマの文献検索をする
	9	発表方法について	研究を進める
	10	中間報告①	研究を進める
	11	中間報告②	研究を進める
	12	研究発表①	研究を進める
	13	研究発表②	研究をまとめる
	14	研究発表③	研究をまとめる
	15	障害学研究のあり方について	ディスカッションをまとめる
	16	まとめ	講義をふりかえる
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 随時、論文、資料、文献を紹介していく ①コリン・バーンズ他著杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ～イギリス障害学概論』、明石書店。 ②杉野昭博(2007)『障害学～理論形成の射程～』、東京大学出版会。その他		
	学びの手立て 障害学に関する文献および論文を多数紹介するので、それをしっかり読みましょう。障害学や障害者福祉に関する研究会に積極的に参加しましょう。		
	評価 ①事前学習課題の取り組み、②講義時の積極的参加の状況、③レポート内容を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：学内外の情報保障の実践の場に積極的に関わり、演習で学んだことを活かしましょう。 関連科目：障害者に対する支援と障害者自立視線制度、障害学、相談援助の理論と方法、教職課程の諸科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	障害児（者）援助特論	後期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1 年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい この講義では、「地域支援」や「ケースワーク・ソーシャルワーク実践」について、実践的な理解をすすめていくことを目的とする。精神科医療、児童福祉、障害福祉、発達障害児者支援、ひきこもり支援など、さまざまな分野において臨床心理士によるケースワーク・ソーシャルワークの具体的な実践の方法と知識について掘り下げていきたい。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 具体的な事例を通じて学んで行く。事例は、多くの心理臨床場面に登場するダイアッド（二項関係的）なものではなく、多くの関係者や地域社会、そして制度との関連を想定したトライアッド（三項関係的）なものから、ケースワーク（ケースをコーディネートする力）にふれていきたい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理臨床とソーシャルケースワーク（1）	事前配付資料の熟読
	2	心理臨床とソーシャルケースワーク（2）	事前配付資料の熟読
	3	心理臨床とソーシャルケースワーク（3）	事前配付資料の熟読
	4	資源と制度を学ぶ（1）	事前配付資料の熟読
	5	資源と制度を学ぶ（2）	事前配付資料の熟読
	6	資源と制度を学ぶ（3）	事前配付資料の熟読
	7	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（発達障害）	事前配付資料の熟読
	8	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（発達障害）	事前配付資料の熟読
	9	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（精神保健福祉）	事前配付資料の熟読
	10	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（ひきこもり介入）	事前配付資料の熟読
	11	心理臨床としての地域支援・ケースワーク実践（児童福祉）	事前配付資料の熟読
	12	支援制度をつくる、資源をつくる（1）	事前配付資料の熟読
	13	支援制度をつくる、資源をつくる（2）	事前配付資料の熟読
	14	地域事例から学ぶ（1）	事前配付資料の熟読
	15	地域事例から学ぶ（2）	事前配付資料の熟読
	16	まとめ	レポート執筆
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で指定して行く。		
	学びの手立て 古典の講読からロールプレイにいたるまでさまざま取り組みに対応できるようにしていただきたい。		
学びの継続	評価 ① 3 分の 2 以上の出席、② 授業中の課題、③授業外の課題、④ 学期末レポート		
	次のステージ・関連科目 それぞれの修士論文執筆への取り組みが次のステージ・関連科目である。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 それぞれの修士論文執筆への取り組みが次のステージ・関連科目である。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学研究法特論	後期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊 真児	1 年	研究室：5号館534 stomari@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	臨床心理学を専攻する大学院生が、修士論文作成の中で用いることが多い心理学の研究法に焦点を当てる。文献の検索・収集・批判的検討から、研究デザインの策定、データの収集と解析、結果の考察と論文執筆、そして発表に至るまで、一連の科学的実証研究のプロセスを体得することを目指す。講義の中で、修士論文のデザインをブラッシュアップしていくことも目的の1つである。	講義形態は、いわゆる「授業」ではなく、「アクティブ・ラーニング」を重視したやり方とする。よって、卒業研究や修士論文研究デザインの発表、講義における意見表明や質問、対話や討論など、積極的・能動的な関与を求める。
準備	到達目標	
	①「科学」および「心の科学」とは何かについて、自分なりの見識を持つことができる。 ②心理学研究の主要な方法論について理解し、その要点を人に説明することができる。 ③研究論文をクリティカルに読む方法の基礎が身につけられる。 ④講義内でのプレゼンと討議を通して、修士論文の研究デザインを洗練させることができる。	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション・授業契約
	2	科学(的) とは何か？について考える～定義・要件・心の科学論～
	3	心理学の方法論(1)：実験法
	4	心理学の方法論(2)：質問紙調査法
	5	心理学の方法論(3)：面接法
	6	心理学の方法論(4)：質的研究法
	7	研究論文を批判的に読む(1)～クリティカル・リーディング入門～
	8	研究論文を批判的に読む(2)～クリティカル・リーディング演習～
	9	研究発表(1)：卒業研究 or 修論計画のプレゼンテーション
	10	研究発表(2)：卒業研究 or 修論計画のプレゼンテーション
	11	修士論文ブレデザイン発表・検討会(1)
	12	修士論文ブレデザイン発表・検討会(2)
	13	修論作成に関わる主要論文の批判的検討(1)
	14	修論作成に関わる主要論文の批判的検討(2)
	15	修士論文ブレデザイン発表会
	16	予備日
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	
	テキストは特に指定しない。毎回の配布資料を中心に講義する。以下に参考書籍を示す。 ・安藤清志・村田光二・沼崎誠 編 2017 〔補訂新版〕社会心理学研究入門 東京大学出版会 ・宮本聡介・宇井美代子 編 2014 質問紙調査と心理測定尺度 サイエンス社 ・村井潤一郎 2012 Progress & Application心理学研究法 サイエンス社 ・浦上昌則・脇田貴文 2008 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書	
	学びの手立て	
	実習や学外ボランティア等、やむを得ない事情で遅刻や欠席をする際は、なるべく事前に担当教員に連絡を入れること。難しい場合は、事後速やかに連絡すること。講義では、質問やコメント等、積極的かつ能動的な関与を求め、その度合いを評価します。講師や他の受講生の話をうのみにせず、いったん自分の頭でクリティカルに考えてから咀嚼すること。自分なりの視点と意見を持ち、それを表明し、対話・議論することを心がけること。	
	評価	
	1. 講義における発言、質疑応答や対話・討論への積極的な参加等、授業参加度が60％ 2. プレゼンテーションや課題への取り組み状況等、課題遂行度が40％ 上記の1と2をもとに、総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	・心理統計法特論を履修すると、データ解析法と研究法の関連性が理解しやすくなるだろう。 ・次のステージとして、臨床心理学特殊研究での修士論文作成に活かしてほしい。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理支援に関する理論と実践	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1 年	平山篤史 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理臨床面接の基本的考え方、態度、理論を習得する。学内外の臨床実習に対応できる基礎力を養う。	メッセージ 心理臨床面接は「技法」だけを覚えても支援の役に立ちません。技法にクライアントを当てはめるのではなく、クライアントの役立つように技法を使えるようにともに学んでいきましょう。代表的な心理支援の理論と方法をおさえた上で、学内外の実習で使える心理臨床面接を取り上げて学びます。
	到達目標 心理臨床面接の実践の基礎が理解できる ロールプレイングや学内外の実習で心理臨床面接ができる	

学びの実践	<div> <div>学びのヒント</div> <div>授業計画</div> </div>		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	力動論に基づく心理療法の理論と方法	資料精読・リフレクションシート
	2	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法	資料精読・リフレクションシート
	3	その他の心理療法の理論と方法	資料精読・リフレクションシート
	4	心理療法に共通する治療要因	資料精読・リフレクションシート
	5	箱庭療法①理論と方法	リフレクションシート
	6	箱庭療法②ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ 1	リフレクションシート
	7	箱庭療法③ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ 2	リフレクションシート
	8	箱庭療法④ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ 3	リフレクションシート
	9	箱庭療法⑤事例から学ぶ	資料精読・リフレクションシート
	10	遊戯療法①理論と方法、遊戯療法の体験性・関係性・表現性、心理療法における枠組み	資料精読・リフレクションシート
	11	遊戯療法②ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ 1	リフレクションシート
	12	遊戯療法③ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ 2	リフレクションシート
	13	遊戯療法④ロールプレイングと振り返りディスカッション グループ 3	リフレクションシート
	14	遊戯療法⑤事例から学ぶ 1	資料精読・リフレクションシート
	15	箱庭療法⑥事例から学ぶ 2	資料精読・リフレクションシート
	16	まとめ	
	<div> <div>テキスト・参考文献・資料など</div> <div>臨床心理学全書3 臨床心理面接学 東山紘久（編）誠信書房 2005 臨床心理学全書9 臨床心理面接技法 2 田嶋誠一（編）誠信書房 2003</div> </div>		
	<div> <div>学びの手立て</div> <div>心理臨床実践の学びのためには、自分の認知・行動・感情を振り返り、言語化するトレーニングが必要とされる。その際、乗り越えなければならない自分自身の課題も見つかると思うが、それに向き合い続けなければならない。心理的負担を伴う作業ではあるが、スーパーバイザーや教員を使い、支えを得ながら、取り組んでほしい。受け身的な態度では実践力は身につかない。積極的に発言し、行動し、多くの経験を積んでほしい。</div> </div>		
	<div> <div>評価</div> <div>①実習・ディスカッションへの取り組み方 50% ②リフレクションシート・課題の提出状況 50% を総合的に判断し評価する。</div> </div>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床心理学領域の領域必修科目、選択科目、学内外の実習につながる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理実践実習Ⅰ	通年	水 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・井村 弘子	1 年	平山：研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp 井村：研究室 5-424-2 h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 臨床現場で実習をする上で必要な倫理、態度、基本的知識・技能を学習し、実習の準備を行う。心の専門家が働いている4分野（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野）について実習・見学実習を行う。また、これらの実習体験を振り返り、心理的支援の専門家を目指す上で、今後の演習・実習で必要となる自らの課題や活かせる資質を確認する。	メッセージ 生の臨床現場を体験する実習である。そのため、必要な準備（基礎的な知識・倫理）をしっかりと行うことが必要となる。
	到達目標 心理的支援の専門家として必要な①コミュニケーション能力②心理査定技能③心理面接技能④地域支援技能の基礎を習得する。心理支援が必要とされる対象者のニーズの把握と心理学的理解、それに応じた支援方針の計画の考え方を習得する。 実習施設における多職種とのチームアプローチの基礎を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料をよく読む
	2	社会人として働くこと、組織人として働くこと	ディスカッションの振り返り
	3	保健医療分野に関する法的根拠	調べ学習と復習
	4	保健医療分野（精神科病院）の役割と機能	調べ学習と復習
	5	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（統合失調症）	調べ学習と復習
	6	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（アルコール依存症）	調べ学習と復習
	7	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（認知症）	調べ学習と復習
	8	保健医療分野（精神科病院）における支援の対象者と心理的支援（ダイケア・作業療法）	調べ学習と復習
	9	保健医療分野における多職種の役割と連携	調べ学習と復習
	10	保健医療分野（精神科病院）におけるアセスメント技法	調べ学習と復習
	11	実習生として臨床現場に入るということと基本的ルール	ディスカッションの振り返り
	12	心理的支援従事者に求められる倫理	ディスカッションの振り返り
	13	実習目的の具体化・明確化①前半グループ	発表準備・振り返り
	14	実習目的の具体化・明確化②後半グループ	発表準備・振り返り
	15	実習記録のまとめ方	配布資料を読む
	16	精神科病院実習報告と振り返り①前半グループ	発表準備・振り返り
	17	精神科病院実習報告と振り返り②後半グループ	発表準備・振り返り
	18	教育分野の法的根拠	調べ学習と復習
	19	教育分野（教育委員会教育相談課）の役割と機能	調べ学習と復習
	20	教育分野（教育委員会教育相談課）における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	21	教育委員会教育相談課見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
	22	福祉分野の法的根拠	調べ学習と復習
	23	福祉分野（児童相談所）の役割と機能	調べ学習と復習
	24	福祉分野における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	25	児童相談所見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
	26	司法・犯罪分野の法的根拠	調べ学習と復習
	27	司法・犯罪分野（少年鑑別所）の役割と機能	調べ学習と復習
	28	司法・犯罪分野（少年鑑別所）における支援の対象者と心理的支援	調べ学習と復習
	29	少年鑑別所見学実習の振り返り	ディスカッションの振り返り
	30	まとめ	ディスカッションの振り返り
	31		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 病院で働く心理職―現場から伝えたいこと 野村れいか（編著）日本評論社 臨床心理士を目指す大学院生のための精神科実習ガイド 津川律子・橘玲子（編著）誠信書房 こころの専門家が会える法律 佐藤進（監）津川律子・元永拓郎（編）誠信書房</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>実習は参加するだけでは何も身にならない。事前に関連知識を得て、問題意識・目的意識を明確化して臨むことで多くの学びを得ることができる。また、同じ体験をしても、実習生によって感じることや考えることは異なる。実習後はディスカッションを行い、意見交換し、実習体験をより深化させる。</p>
	<p>評価</p> <p>準備（事前課題・発表）…30点 実習態度・実習への取り組み…30点 実習後のディスカッション…30点 実習の振り返りレポート…10点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅲ、心理実践実習Ⅳ その他の専門科目</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理実践実習Ⅱ	通年	火 6・7	6
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦・井村 弘子・山入端 津由	2 年	上田まで y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本実習では、心理実践実習Ⅰの学習成果をふまえ、学内外での心理臨床活動の実際に触れながら、地域に根ざした心理臨床活動を展開するために必要な実践的知識や技法の習得を目指す。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験に基づき、実際の臨床現場で何が求められるのか、何をやらなければならないかを明確にしながら実習に参加できるようにしていきます。毎週の学外実習と実習報告には、かなりの時間とエネルギーを必要とします。体調管理も行いながら年間取り組むこと。
	到達目標 臨床心理学的な人間理解と援助法を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、実習計画報告、事前課題報告	事前課題作成
	2	心理実践実習Ⅰで修得した面接技法などについて確認し、学外での実習に向けた演習を行う。	学外での実習、報告書作成
	3	心理実践実習Ⅰで修得した面接技法などについて確認し、学外での実習に向けた演習を行う。	学外での実習、報告書作成
	4	心理実践実習Ⅰで修得した面接技法などについて確認し、学外での実習に向けた演習を行う。	学外での実習、報告書作成
	5	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	6	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	7	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	8	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	9	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	10	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	11	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	12	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	13	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	14	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	15	学外実習での実習成果をふまえ、実際の臨床場面での問題や課題について事例をもとに検討する。	学外での実習、報告書作成
	16	前期の実習を振り返り、後期の実習課題を検討する。事前課題の報告	事前課題の作成
	17	前期の実習を振り返り、後期の実習課題を検討する。	学外での実習、報告書作成
	18	実習施設担当者に「心理臨床の現場と公認心理師の役割と活動」に関する講義	学外での実習、報告書作成
	19	実習施設担当者に「心理臨床の現場と公認心理師の役割と活動」に関する講義	学外での実習、報告書作成
	20	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	21	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	22	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	23	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	24	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	25	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	26	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	27	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	28	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	29	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	30	個別の事例について検討を行い問題点を探ると同時に、より適切な対応について検討する。	学外での実習、報告書作成
	31		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。
	<p>学びの手立て</p> <p>実習先では積極的にクライアント・利用者に関わること。また自らの関わりを言語化し記述することが心理師としての技量を高めることに繋がる。単なる記録としてではなく、技量のトレーニングであることを意識しながら報告書をまとめること。</p>
	<p>評価</p> <p>毎回の実習記録・・・60%、学外実習担当者の評価・・・40%をもとに評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>心理実践実習Ⅳ、臨床心理面接特論</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理実践実習Ⅲ	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・上田 幸彦	1 年	平山：研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp 上田：研究室13-213 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学院付属の施設、心理相談室のケースを担当するための基本的な知識や枠組みを学び、心理相談室業務の実習を通して体験的に学ぶ。実習Ⅲでは、特にで電話受付と、臨床心理士有資格者の面接陪席が中心となる。また、心理相談室業務の運営についても実践を通して学ぶ。	メッセージ 心理相談室のスタッフとして、業務とクライアントに関わることで心理臨床の基礎を学べます。有資格者の面接を陪席できる機会は、社会にでるとなかなか体験することができません。陪席者という立場で俯瞰的に面接を観察する一方で、自分が面接担当者であるかのような「思い入れ」も持ちながら望んでほしいです。
	到達目標 ①心理相談室業務の基本的枠組みが理解できる②心理相談室業務の流れが理解できる③電話受付業務ができる④面接への陪席を通して、クライアント理解、および、セラピストとクライアントの相互作用が理解できる⑤インテーク報告書をまとめることができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	心理相談室の組織と機能	配布資料の復習
	3	心理相談室の面接構造	配布資料の復習
	4	心理相談室の備品と使い方	配布資料の復習
	5	心理相談室の相談業務の流れ	配布資料の復習
	6	電話受付の概要と留意点	配布資料の復習
	7	電話受付ロールプレイングと受付シートの作成 1	ロールプレイング体験振り返り
	8	電話受付ロールプレイングと受付シートの作成 2	ロールプレイング体験振り返り
	9	ケースに関する各書式の必要事項と留意点	配布資料の復習
	10	ケース記録の記入に関する留意点	配布資料の復習
	11	陪席実習の目的・意義	配布資料の復習
	12	陪席実習の心構えと留意点	ディスカッションの振り返り
	13	陪席記録の取り方	配布資料の復習
	14	陪席実習振り返り1	陪席記録のまとめ・発表準備
	15	陪席実習振り返り2	陪席記録のまとめ・発表準備
	16	陪席実習振り返り3	陪席記録のまとめ・発表準備
	17	ケースカンファレンス運営の方法と留意点	配布資料の復習
	18	陪席実習振り返り4	陪席記録のまとめ・発表準備
	19	陪席実習振り返り5	陪席記録のまとめ・発表準備
	20	陪席実習振り返り6	陪席記録のまとめ・発表準備
	21	インテーク報告書の各項目と書き方	インテーク報告のまとめ・発表準備
	22	インテーク報告書のまとめ方（基本事項・ジェノグラム・主訴）	インテーク報告のまとめ・発表準備
	23	インテーク報告書のまとめ方（成育歴・現症歴・問題歴）	インテーク報告のまとめ・発表準備
	24	インテーク報告書のまとめ方（見立てと方針）	インテーク報告のまとめ・発表準備
	25	インテーク報告書のまとめ方についての集団スーパーヴィジョン	インテーク報告のまとめ・発表準備
	26	陪席実習振り返り7	陪席記録のまとめ・発表準備
	27	陪席実習振り返り8	陪席記録のまとめ・発表準備
	28	陪席実習振り返り9	陪席記録のまとめ・発表準備
	29	ケースの引き継ぎについての留意点1	見立て・方針のまとめ
	30	ケースの引き継ぎについての留意点2	見立て・方針のまとめ
	31		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考図書 心理臨床家の手引き 鏑幹八郎・名島潤慈（編著） 誠信書房 臨床面接の進め方―初心者のための13章― M・ハーゼン、V・B・ヴァンハッセル（編）深澤道子（監訳）日本評論社 カウンセリングプロセスハンドブック 福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦（編）金子書房</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>個々のケースへの対応は、机上の勉強だけでは学べないことが多くあります。基本的な枠組みはしっかり押さえつつ、個々のケースに応じてどう対応できるのかその都度その都度考えることが重要です。判断のつきにくいことも多いかと思いますが、教員、嘱託カウンセラーの先生、先輩に積極的に質問し、経験を通して学びましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>実習態度・実習への取り組み…40点 実習後の振り返りのディスカッション…30点 毎回の課題・実習の振り返りレポート…30点</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅳ、臨床心理実習A/B その他の専門科目</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理実践実習Ⅳ	通年	水 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦・井村 弘子	2 年	上田まで y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 来談者のニーズに応じた適切なアセスメント、心理支援を提供できるようにする。	メッセージ 【実務経験】臨床心理としての経験を持つ担当者が、実際の心理臨床と同じ心理支援が提供できるように指導します。実際の面接は非常に負担が強いものであるのでスーパーバイズを受けながら自身のメンタルヘルスにも気をつけながら実習を続けること。
	到達目標 来談者の様々なニーズに合わせた適切な心理支援ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	担当事例①アセスメント	面接記録作成
	3	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	4	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	5	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	6	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	7	担当事例①介入・スーパービジョン	面接記録作成
	8	担当事例②アセスメント	面接記録作成
	9	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	10	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	11	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	12	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	13	担当事例②介入・スーパービジョン	面接記録作成
	14	担当事例③アセスメント	面接記録作成
	15	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	16	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	17	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	18	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	19	担当事例③介入・スーパービジョン	面接記録作成
	20	担当事例④アセスメント	面接記録作成
	21	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	22	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	23	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	24	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	25	担当事例④介入・スーパービジョン	面接記録作成
	26	担当事例⑤アセスメント	面接記録作成
	27	担当事例⑤介入・スーパービジョン	面接記録作成
	28	担当事例⑤介入・スーパービジョン	面接記録作成
	29	担当事例⑤介入・スーパービジョン	面接記録作成
	30	担当事例⑤介入・スーパービジョン	面接記録作成
	31		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>来談者の話を共感的に聞きつつ、来談者の抱える苦悩の構造はどうなっているか、介入の糸口は何かを同時に考える。この姿勢を常に保って面接に臨むことが大切である。来談者の問題を自分一人で抱え込むことなく、スーパーヴァイザーを活用しながら取り組むこと。</p>
	<p>評価</p> <p>各面接への取り組み・・・５０％、面接記録・・・２０％、面接継続の状況・・・３０％によって評価する。、</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>臨床心理実習Ｂ、臨床心理面接特論</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理的アセスメントに関する理論と実践	前期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 公認心理師に必要とされる、クライアントの人格・行動とその規定要因に関する情報を系統的に収集して、クライアントに対する介入方針を決定するため作業仮説を組み立てることができる能力を高める。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験をもとに、臨床現場で必要となるアセスメント法を使いこなせるようにします。またアセスメントに基づき報告書を書き、フィードバックも行えるようにします。
	到達目標 アセスメントにもとづく具体的な介入・援助方針を導き出せるようにする。クライアントや他職種にも分かるような結果報告書が書けるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理アセスメントに有用な情報及びその把握方法	配布資料の復習
	2	関与しながらの観察について	配布資料の復習
	3	人格検査概論	配布資料の復習
	4	神経心理学的検査概論	配布資料の復習
	5	認知機能概論	配布資料の復習
	6	WAIS-Ⅲ①	配布資料の復習
	7	WAIS-Ⅲ②	データ整理
	8	WMS- R①	結果の整理
	9	WMS-R②	データ整理
	10	注意機能検査	結果の整理
	11	遂行機能検査	配布資料の復習
	12	検査結果の包括的解釈	配布資料の復習
	13	心理検査結果報告書の作成	配布資料の復習
	14	心理アセスメントにもとづく介入方針の検討①	配布資料の復習
	15	心理アセスメントにもとづく介入方針の検討②	配布資料の復習
	16	レポート	
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 神経心理学的検査集成 レザック, M. D. 鹿島晴雄監修 創造出版 心理アセスメントレポートの書き方 リヒテンバーガー他 日本文化科学社		
	学びの手立て 講義の前後に配布資料を読みこなすこと。また関連書籍を読むことが大切である。なにより心理テストは数多く実施することが習熟への近道である。		
	評価 平常点（講義への積極的参加、コメント・質問等）・・・10％、最終レポート・・・90％によって評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：保健・医療分野に関する理論と支援の展開、臨床心理面接特論Ⅱ 次のステージ：臨床心理実習
-------	--

科目基本情報	科目名 心理療法特論	期 別 集中	曜日・時限 集中	単 位 2
	担当者 -井村 修	対象年次 1 年	授業に関する問い合わせ	
	学 び の 準 備	ねらい	メッセージ	
到達目標				
学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	テキスト・参考文献・資料など			
	学びの手立て			
学 び の 継 続	評価			
	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	児童福祉特論	後期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	1 年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 今日の子どもを取り巻く環境等を踏まえた上で主として学齢期における子どもの抱える諸問題について学び、さらに本人やその保護者を含む家族への支援について理解を深める。特にスクールソーシャルワーク（以下、SSW）や社会的養護の現場に焦点をあて、同領域における子どもの権利、専門職のあり方等について理論を踏まえて実践課程について学ぶ。	メッセージ 学齢期における子どもの抱える諸問題に焦点をあてるため、常日頃より社会でどのような問題が起こっているのか関心をもつこと。その際、子どもやその家族のもつニーズは何か、支援者として何をすべきか考えること。
	到達目標 社会で生じている児童家庭福祉に関する諸問題を多角的に捉えることができる。また、社会福祉の現場で中核となる専門職として、新人職員等を指導できる力を身につける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>①オリエンテーション、授業の目的、計画等</p> <p>②子どもを取り巻く現代的課題 その1；子どもの貧困</p> <p>③子どもを取り巻く現代的課題 その2；児童虐待</p> <p>④SSW理論 その1</p> <p>⑤SSW理論 その2</p> <p>⑥SSW実践 その1</p> <p>⑦SSW実践 その2</p> <p>⑧社会的養護；施設養護 その1</p> <p>⑨社会的養護；施設養護 その2</p> <p>⑩社会的養護；家庭的養護 その1</p> <p>⑪社会的養護；家庭的養護 その2</p> <p>⑫子どもの権利擁護システム その1</p> <p>⑬子どもの権利擁護システム その2</p> <p>⑭子ども支援者へのスーパービジョン その1</p> <p>⑮子ども支援者へのスーパービジョン その2</p> <p>⑯まとめ</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて適宜示すこととする。以下、参考文献。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅井春夫(2017)；『「子どもの貧困」解決への道』、自治体研究所。 ・門田光司ほか(2014)；『スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン研究—日本・アメリカ・カナダ・韓国での調査報告—』科研費基盤研究B。 ・山下英三郎(2012)；『修復的アプローチとソーシャルワーク』、明石書店。 ・藤岡孝志(2008)；『愛着臨床と子ども虐待』、ミネルヴァ書房。
	<p>学びの手立て</p> <p>自らの関心や修士論文テーマとの関連で、本科目の内容を理解するように努めること。また、図書館等も活用し、関連する論文・資料等を積極的に収集し、購読すること。加えて、学内外で行われる講演会・研修会等にも積極的に参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度、出欠状況、プレゼンテーション及び課題等を総合して評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>他の講義・演習科目との関連を意識し、修士論文作成に向けて取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 人格心理学特論	期 別 集中	曜日・時限 集中	単 位 2
	担当者 -向笠 章子	対象年次 1 年	授業に関する問い合わせ	
	学びの準備	ねらい	メッセージ	
到達目標				
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	テキスト・参考文献・資料など			
	学びの手立て			
	評価			
学びの継続	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	投映法特論	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	1 年	稲田梨沙 <r.inada@okiu.ac.jp>	

学びの準備	ねらい 心理検査の中でも投映法検査について取り上げる。主にロールシャッハ・テストの適切な実施方法、結果の整理、解釈の基本的な考え方について体験的に学習した上で、検査報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく総合所見の書き方などを身につけることを目的とする。	メッセージ 演習の一環として事前に必ず被験者体験をし、データを手元に用意すること。投映法検査について、各検査の成り立ち、目的、構成、手順、測定方法などについて各自整理しておくこと。
	到達目標 〃投映法検査を臨床場面で実際に活用するには、さらなる研修が必要であるが、その基礎を学ぶ機会になればと考える。この科目を履修することによって主にロールシャッハ・テストの実施と結果整理ができるようになる。その分析や解釈方法については、事例を通して理解を深めることができるようになる。	

学びの実践	<div> <div>学びのヒント</div> <div>授業計画</div> </div>		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理学における心理査定について	臨床心理学の査定について調べる
	2	投映法被験者体験を振り返る	被験者体験後感想をまとめておく
	3	投映法検査概論	投映法検査の種類について調べる
	4	ロールシャッハ・テストの歴史と実施方法	ロ・テの歴史と実施 テキスト予習
	5	ロールシャッハ・テストの結果整理の方法	ロ・テの結果整理 ”
	6	ロールシャッハ・テストのスコアリング方法	ロ・テのスコアリング ”
	7	ロールシャッハ・テストの分析・解釈の方法	ロ・テの分析・解釈 ”
	8	架空事例のスコアリング実習	スコアリングをすべてまとめる
学びの実践	9	架空事例の結果整理実習	結果を最後まで整理する
	10	事例Aのスコアリング実習	スコアリングをすべてまとめる
	11	事例Aの結果整理実習	結果を最後まで整理する
	12	事例Aの見立てと所見の書き方	所見の書き方について調べ学習
	13	スコアリングの実践	スコアリングをすべてまとめる
	14	結果整理の実践	結果を最後まで整理する
	15	所見のまとめ方実践	所見を仕上げる
	16	最終レポート作成・提出（到達度の確認）	最終レポート作成・提出
学びの手立て	<div> <div>テキスト・参考文献・資料など</div> <div> <div>テキスト：片口安史 「改訂新・心理診断法」 金子書房</div> </div> </div>		
	<div> <div>学びの手立て</div> <div> <div>①履修の心構え</div> <div>欠席するとその後の理解に支障をきたすため、皆出席かつ遅刻厳禁。</div> <div>②学びを深めるために</div> <div>臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。</div> </div> </div>		
	<div> <div>評価</div> <div> <div>発表、討論への参加、提出されたレポート等から総合的に評価する。</div> <div>割合</div> <div>平常点(出席状況等) 30％ 課題レポート50％ 最終レポート20％</div> <div>上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。</div> </div> </div>		

学びの継続	<div>次のステージ・関連科目</div> <div>「臨床心理査定演習Ⅰ」「臨床心理査定演習Ⅱ」を受講することが望ましい。</div> <div>次のステージ</div> <div>「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理事例検討実習」などを受講する中で、事例を通してさらに理解できることが望ましい。</div>
-------	---

科目基本情報	科目名 人間福祉特殊研究ⅠB	期 別	曜日・時限	単 位
		通年	木 6	4
	担当者 比嘉 昌哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業は、修士論文作成の準備期間として位置づける。自身の関心分野について研究動向を把握する。研究の進め方を理解し、研究計画を作成し研究活動を進める。	メッセージ 受講生の研究活動をサポートしますので、意欲的に取り組んで下さい。
	到達目標 自らの関心のあるテーマについて先行研究を把握すること。その上で、研究計画を立て、研究活動を進めていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 〔第1セメスター〕 第1週；オリエンテーション 第2～4週；問題意識の整理、研究計画書の吟味 第5～7週；関心テーマに関する先行研究の概観、参考文献の収集 第8～10週；構想発表、その検討、仮説の明確化 第11～13週；研究方法の検討、倫理的課題について理解する 第14～16週；まとめ 〔第2セメスター〕 第1週；オリエンテーション、研究の進捗状況の報告 第2～4週；主要参考文献の精読、研究動向の概要作成 第5～7週；調査等の実施、研究計画に沿ったプレ調査の実施 第8～10週；課題の明確化、先行研究及び自らの調査を通して 第11～13週；論点の整理、研究のテーマ・仮説の確定 第14～16週；まとめ	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。授業時に適宜紹介する。	
	学びの手立て 論文作成においては、多くの先行研究を客観的・批判的に精読する必要がある。また、県内・外の学会や研究会には積極的に参加しましょう。	
	評価 出席や課題提出の状況、プレゼンの内容等総合的に判断し、評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「人間福祉特殊研究ⅡB」につなげていく。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名 人間福祉特殊研究ⅡB	期 別 通年	曜日・時限	単 位 4
	担当者 LC 教員 1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2 年		
	学びの準備	ねらい	メッセージ	
到達目標				
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	テキスト・参考文献・資料など			
	学びの手立て			
	評価			
学びの継続	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人間福祉特殊研究ⅡE	通年	水 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイク・ウィルコックス	2 年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 本授業のねらいは以下のとおりとする。 1. 研究方法に関する理解 2. 各自の研究テーマの確定 3. 専攻研究まとめと研究の位置づけの明確化 4. 研究計画（調査方法・時期、分析方法など）の確定 5. 基礎調査等の実施	メッセージ 各自の修士論文作成へ向けた意見交換やアドバイスをを行う。 文献を調べる、研究会や学会へ参加し知識を深める、専門分野の人達との関わることなどへのすべきことに時間を割いても足りないの で、自分の研究に関することや論文執筆には時間を調整しつつ行うこと。
	到達目標 修士論文提出を目標とする。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業と個別指導を取り混ぜながら行う。 ・前期では、研究の意味や基本的視点、研究に必要な情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認する。 ・論文購読、学会参加、実際の研究活動や発表に参加を通して研究活動についての理解を深める。 ・研究フィールドの確定と現場への参加を通して、実践例・事例等への接触と観察、基礎的な資料の作成を行う。 ・学会や研究会への参加を通して研究活動に取り組む。</p> <p>授業計画 ＜前期＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：各自の研究テーマの紹介。 第 3 回：研究課題とフィールドの明確化。 第4～8 回：研究の意味と基本的視点、情報検索・調査・分析に関する一般的な方法論、倫理等について再確認 第9 ～10回：中間報告会へ向けた発表指導、個別指導。 第11～14：中間報告会への準備のための話し合いを中心に行う。課題の明確化、個別指導。 第15回：前期のまとめ。</p> <p>8月上旬：研究科においての中間報告会 夏季休暇中：学会参加、研究活動を奨励。</p> <p>＜後期＞ 第16～18回：後期を始めるに当たって、夏季休暇中の進捗を確認。 第19～24回：個別研究指導。 第25～28回：修士論文提出に向けた指導を行う。 第29～30回：まとめ、提出。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 沖縄で学ぶ 福祉老年学 （学文社）金城 一雄・国吉 和子・山城 寛 編著 2009年 健康長寿の条件：元気な沖縄の高齢者たち （株式会社ワールドプランニング）崎原 盛造・芳賀 博 2002年 他、適宜紹介をする。 【参考文献】 適宜、論文等を紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>自身の専門分野について積極的に情報を収集する。 指導教員との演習時間外の時間調整については積極的に行い、修士論文を作成するための努力を行うこと。 修士論文の執筆のためには事前の自身の知識も必要になります。日頃から関連資料を精読するなど小さな事から取り組むこととする。</p>
	<p>評価</p> <p>①出席、レポート提出。②クラス討論、授業内での発表。③研究テーマの確定および取組状況。④研究発表報告の内容と達成度。 出席およびレポート提出状況を重視する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>修論が提出できれば修了も間近です。今後は本演習にて体得したことを元に自身の研究を進めてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 人間福祉特論	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	木 3	2
	担当者 小柳 正弘	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は、テキストの批判的読解と受講者との議論により、人間と福祉とのかかわりについて原理的な考察をおこなうものである。	メッセージ 「ともに考える」ことへの主体的な取り組みを求める。
	到達目標 伝統的支援原理としての「隣人愛」がどのような意味で「現場の理念」となりうるか、いくつかの可能性をコンパクトに述べるができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <div> <div>＊発表／報告等のレジュメ、特定質問、コメント等の作成などは時間外の学習として行う（第1回－第15回）。</div> <div> <input type="checkbox"/>社会福祉の原理と人間の倫理を架橋する「現場の理念」となりうるものを探索・検討する。 今年度は、伝統的支援原理の一つである「隣人愛」についての原理的検討を行う。 </div> <div> <input type="checkbox"/>授業は以下のような段取りでおこなう。 第1回 読解と批判的コメントの技法について 第2回－第15回は以下の方法でテキストを輪読する。 ・文献について受講者が交替で分担してレジュメ（A4、1～2枚、40字×30行）をつくり、概要を報告する。 ・報告担当者以外の受講者は批判的コメント（A4、1枚、40字×30行程度）を準備する。 ・概要とコメントふまえて全員で議論する。 </div> </div>	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・遠藤徹『〈尊びの愛〉としてのアガペー』教文館	
	学びの手立て <div> ・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。 </div>	
	評価 <div> ①授業中の発表／報告・議論／質疑／コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価60%、②時間外に作成したレジュメ・レポート等（特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む）など提出物を形式と内容から評価40% ＊遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。 </div>	

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会倫理学特論
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	福祉分野に関する理論と支援の展開	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 静香	1 年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義の目的は、支援を必要とする高齢者、障害児・者、児童、その他生活貧困窮等者の問題について基礎知識を習得し、様々な方面から支援のあり方について議論することである。また、障害児・者の講義では、少数の神経発達障害に焦点を当て、特質にあった臨床判断や介入の重要性を理解する。当事者の支援や介入だけではなく、家族支援も含めた介入も視野に入れた知識の拡充を目的とする。	メッセージ 講義だけでは十分に到達目標を達成するには至らない箇所は、理解を深めるために配布物を配布する。事前に配布された資料・論文等を十分読みこなし、各自が問題意識を持って積極的にディスカッションに参加することが重要である。障害児・者の講義では、二つの神経発達障害に焦点を絞って理論、臨床的判断、支援法等を学ぶ。
	到達目標 支援を必要とする高齢者、神経発達障害・者、児童、その他生活貧困窮者の問題について、問題の性質や現状、障害の特質、支援のあり方について理解を深めること。神経発達障害の臨床的判断や治療法についての視野を広げることを目的とし、アセスメントの計画を立て、理論に基づいた適切な介入法を検討することや提示することが出来るようになる。加えて、エビデンスに基づいた臨床実践の重要性を踏まえて、心理社会的支援における実証研究法について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の概要	配布される文献を読んで来ること。
	2	障害の概念	
	3	注意欠如多動症（１）	
	4	注意欠如多動症（２）	
	5	心理社会的支援の理論と概念	
	6	心理社会的支援の実証研究	
	7	自閉スペクトラム症（１）	
学びの実践	8	自閉スペクトラム症（２）	
	9	発達に応じた子どもの問題とその支援	
	10	児童虐待	
	11	神経発達障害と児童虐待	
	12	家族支援を家族療法学から考える	
	13	被害者支援	
	14	高齢者福祉	
	15	学期末発表	
	16	学期末発表	
	テキスト・参考文献・資料など 講義内容に合わせて、適宜プリント資料を配布する。		
学びの手立て	事前学習として出された課題（例えば、文献を読む）にしっかりと目を通し、講義での議論に積極的に参加できるよう準備をすること。		
	評価 ①講義内における議論への積極的な参加を重視する。②学期末発表により評価する。学期末発表は、グループ（または二人一組のペア）毎に与えられたトピックについて発表を行ってもらうが、その出来栄を以下四項目で評価する：（１）障害や問題の性質を十分に理解しているか、（２）広い視野から支援について考慮されているか、（３）トピックについての文献調査が十分であるか、（４）グループの考えが十分展開されているか。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義で話し合える内容や時間には制限があるため、講義で学んだ知識を、異なる障害種や自身の関心のある分野における支援の発展に活かしていけるようになることが、本講義の最大の目標である。
-------	---

※ポリシーとの関連性 臨床心理学的地域援助の実践力を高めるための講義である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	後期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 保健医療分野に必要な心理検査、心理療法、医学知識、法的知識、チーム医療における他の専門職との連携について学ぶ	メッセージ 【実務経験】保健医療分野は公認心理師が最も活躍する領域である。そのため基礎となる心理的支援の知識だけでなく医学、法律の知識も幅広く身につけること。これまでの臨床心理士としての経験を踏まえて実学としての講義を展開する。
	到達目標 保健医療分野で働く公認心理師にとって必要な知識、技術について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	医療・保健の機関	配布資料の復習
	2	関連する法規と制度：医療法、地域保健法、精神保健福祉法、医療保健制度	配布資料の復習
	3	医療倫理、医療記録、患者の権利、患者 - 医療者関係	配布資料の復習
	4	医療における専門職、チーム医療	配布資料の復習
	5	精神科における心理支援（1）統合失調症、気分障害、アルコール依存症	配布資料の復習
	6	精神科における心理支援（2）アセスメント	配布資料の復習
	7	精神科における心理支援（3）個人心理療法	配布資料の復習
	8	精神科における心理支援（4）グループ心理療法	配布資料の復習
	9	一般総合病院における心理支援（1）慢性痛	配布資料の復習
	10	一般総合病院における心理支援（2）糖尿病	配布資料の復習
	11	一般総合病院における心理支援（3）がん	配布資料の復習
	12	一般総合病院における心理支援（4）筋ジストロフィー	配布資料の復習
	13	一般総合病院における心理支援（5）エイズ	配布資料の復習
	14	高次脳機能障害に対するアプローチ	配布資料の復習
	15	認知症に対するアプローチ	配布資料の復習
	16	レポート	
	テキスト・参考文献・資料など 病気のひとのこころ 医療の中での心理学 日本心理学会監修 誠信書房		
	学びの手立て 講義で紹介される文献、関連のある文献に目を通すこと。		
	評価 授業におけるコメントシート・・・20％、最終レポート・・・80％によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理実践実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜 日・時 限	単 位
	臨床心理学特殊研究ⅠC	通年	金 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子 ・ 山入端 津由	1 年	5 号館424-2研究室 h. imura@okiu.ac.jp (@は小文字に直す)	
学 び の 準 備	ねらい 臨床心理学研究の基礎理論・研究方法等について学びながら、各自の研究テーマを設定し、修士論文作成に向けた具体的な研究計画を立て、研究に着手することを目的とする。	メッセージ 大学院での学生生活の集大成である修士論文に向け、研究課題・論文の構想を明確にするという目標に意欲的に取り組んでほしい。		
	到達目標 臨床心理学的研究技法の修得 修士論文の構想			

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	臨床心理学研究概論（1）臨床心理学の領域と研究法	
	3	臨床心理学研究概論（2）研究のプロセス	
	4	臨床心理学研究概論（3）研究倫理	
	5	臨床心理学研究方法論（1）量的研究法	
	6	臨床心理学研究方法論（2）質的研究法	
	7	臨床心理学研究方法論（3）データ収集と分析法	
	8	研究テーマ発表（1）テーマの概要	
	9	研究テーマ発表（2）テーマの論点	
	10	研究テーマ発表（3）テーマ設定と報告	
	11	研究文献発表（1）先行研究の概要	
	12	研究文献発表（2）先行研究の論点	
	13	研究文献発表（3）先行研究のまとめと報告	
	14	集団討議（1）テーマに関する批判的検討	
	15	集団討議（2）テーマの関する建設的提言	
	16	集団討議（3）テーマに関する個別報告	
	17	研究デザイン発表（1）デザインの概要	
	18	研究デザイン発表（2）デザインの独自性・課題・問題点	
	19	研究デザイン発表（3）デザインのまとめと報告	
	20	集団討議（4）デザインに関する批判的検討	
	21	集団討議（5）デザインに関する建設的提言	
	22	集団討議（6）デザインに関する個別報告	
	23	研究方法発表（1）研究方法の概要	
	24	研究方法発表（2）研究方法の論点	
	25	研究方法発表（3）研究方法のまとめと報告	
	26	集団討議（7）データ収集と分析に関する批判的検討	
	27	集団討議（8）データ収集と分析に関する建設的提言	
	28	修士論文構想発表（1）研究計画書の概要	
	29	修士論文構想発表（2）研究計画書の論点	
	30	修士論文構想発表（3）研究計画書の作成と発表	
	31	まとめ	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に定めないが、各自の研究テーマにふさわしいものを随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て 常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 発表内容、研究進行状況、討議参加への姿勢や発言などを総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 次年度は「臨床心理学特殊研究ⅡC」を履修し、専門的能力をさらに高めてゆく。</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学特殊研究ⅠA	通年	金 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 修士論文を書くことで、臨床における科学的見方を身につけ、将来の科学者－実践家モデルとなる下地を作ること をねらいとする。2年間で修士論文を書き上げるためには、1年時は準備期間となるが、この1年間で、臨床心理学における研究領域と研究方法、テーマ設定、仮説構築と検証方法、データ収集の方法、研究における倫理的配慮、統計的技法の選択、文献検索の方法、科学論文の書き方を	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験をもとに、現場においても研究者としての心理士の力を発揮できるように指導していく。
	到達目標 修士論文執筆のためのデザインを完成する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>前期ではまず、各自の卒業論文の概要と関心のある領域・テーマについて発表・ディスカッションを行いながら、関心のある研究領域の拡大を行う。</p> <p>次にその中から各自のテーマに関連する論文を読み、論点を整理し発表する。これを繰り返しながら各自の研究テーマと研究目的を絞り込んでいく。</p> <p>後期において、研究目的を達成するための方法論の検討を行い、研究計画を立てる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>臨床心理学の研究の技法 下山晴彦 編 （福村出版）</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>より多くの先行研究を探し読み込むこと。</p>
	<p>評価</p> <p>毎回の発表の内容・・・80％、取り組みの積極性、討議での積極性・・・20％によって評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>臨床心理学特殊研究ⅡA</p>
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜 日・時 限	単 位
	臨床心理学特殊研究ⅡC	通年	金 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子・山入端津由	2 年	5号館424－2研究室 h.imura@okiu.ac.jp（@は小文字に直す）	
学 び の 準 備	ねらい 初年次で十分検討した各自の研究計画に基づき、調査・面接等によりデータを収集し、そのデータを心理学的手法を用いて分析する。そして、その結果を臨床心理学的論点から考察し、修士論文としてまとめることを目的とする。	メッセージ 修士論文作成に向け、前年度までの構想に基づき、早めに着手してデータを収集し、しっかりとまとめあげてほしい。		
	到達目標 臨床心理学的研究技法の習得 修士論文の作成・執筆・最終発表			

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	修士論文デザイン検討（1）テーマの論点と背景理論	
	3	修士論文デザイン検討（2）研究方法	
	4	修士論文デザイン検討（3）倫理的配慮と研究責任	
	5	修士論文デザイン検討（4）臨床心理学的意義	
	6	集団討議（1）修士論文デザインに関する批判的検討	
	7	集団討議（2）修士論文デザインに関する建設的提言	
	8	集団討議（3）修士論文デザインに関する個別報告	
	9	データ収集報告（1）データ収集の概要	
	10	データ収集報告（2）データ収集の確認	
	11	データ収集報告（3）データ収集の見直し	
	12	データ収集報告（4）データ収集の再確認	
	13	データ収集報告（5）個別報告	
	14	集団討議（4）データ収集に関する批判的検討	
	15	集団討議（5）データ収集に関する建設的提言	
	16	集団討議（6）データ収集に関する個別報告	
	17	データ分析報告（1）データ分析の概要	
	18	データ分析報告（2）データ分析の確認	
	19	データ分析報告（3）データ分析の見直し	
	20	データ分析報告（4）データ分析の再確認	
	21	データ分析報告（5）個別報告	
	22	集団討議（7）データ分析に関する批判的検討	
	23	集団討議（8）データ分析に関する建設的提言	
	24	論文執筆指導（1）執筆方法の概要	
	25	論文執筆指導（2）執筆計画の確認と見直し	
	26	論文執筆指導（3）進捗状況に応じた指導	
	27	論文執筆指導（4）個別報告	
	28	修士論文発表予演（1）発表の概要	
	29	修士論文発表予演（2）発表の具体的準備	
	30	修士論文発表予演（3）最終発表に向けての予行演習	
	31	まとめ	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 特に定めないが、各自の研究テーマにふさわしいものを随時紹介する。</p>
	<p>学びの手立て 常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確率すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。</p>
	<p>評価 発表内容、研究進行状況、討議参加への姿勢や発言などを総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 前年度までに「臨床心理学特殊研究ⅠB」を受講していることが前提である。 また、関連科目である「心理学研究法特論」「心理統計方特論」を履修しておくことが望ましい。</p>

※ポリシーとの関連性 臨床心理学的研究・調査を可能にするための科目である。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学特殊研究Ⅱ A	通年	金 7	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	2 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 修士論文を完成させることを通して、データ収集法、データ収集における倫理的配慮、データ整理、統計的手法、論文執筆における科学論文の構成、引用の仕方等をマスターする。修士論文完成後の発表会の前には、リハーサルを行い、プレゼンテーションの仕方、学会発表の仕方を身につけることをねらいとする。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験から、現場で介入を行うと同時に、データを取り研究するという科学者 - 実践家モデルとしての心理士になれるように指導していく。
	到達目標 修士論文を完成し、修士論文最終発表にて発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	修士論文進捗状況（先行研究） 発表	発表準備・資料作成
	2	〃	発表準備・資料作成
	3	〃	発表準備・資料作成
	4	〃	発表準備・資料作成
	5	修士論文進捗状況（方法・対象者） 発表	発表準備・資料作成
	6	〃	発表準備・資料作成
	7	〃	予備実験開始
	8	〃	予備実験開始
	9	修士論文進捗状況（データ収集） 発表	データ収集
	10	〃	データ収集
	11	〃	データ収集
	12	〃	データ収集
	13	修士論文進捗状況（データ分析） 発表	データ分析
	14	〃	データ分析
	15	〃	データ分析
	16	〃	データ分析
	17	〃	データ分析
	18	修士論文進捗状況（考察） 発表	論文作成
	19	〃	論文作成
	20	〃	論文作成
	21	〃	論文作成
	22	〃	論文作成
	23	〃	論文作成
	24	〃	論文作成
	25	〃	論文作成
	26	修士論文完成版 発表	発表資料準備
	27	〃	発表資料準備
	28	〃	発表資料準備
	29	修士論文発表会 予演	発表パワーポイント作成
	30	〃	発表パワーポイント作成
	31	〃	発表パワーポイント作成

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>APA論文作成マニュアル アメリカ心理学会著 江藤裕之他訳 医学書院</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>データ収集、データ分析に時間を十分に時間を掛けられるようにスケジュール管理を行うこと。</p>
	<p>評価</p> <p>提出された論文の内容から評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>修士論文最終発表、関連学会での発表、論文投稿</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学特論Ⅰ	後期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1 年	5号館424-2研究室 h.imura@okiu.ac.jp（@は半角に変える）	

学びの準備	ねらい 心理職（臨床心理士・公認心理師）を目指す学生の土台となる講義であり、臨床心理学の定義や歴史、日本・諸外国における心理職の資格制度、臨床心理学に基づく人間理解・援助の方法、さらに、今後の展望や倫理問題などについて学ぶ。	メッセージ 人間福祉専攻臨床心理学領域で学ぶための最も基礎となる科目であることを踏まえ、柔軟な発想を持ちつつ、堅実に学んでほしい。
	到達目標 臨床心理学の定義・歴史・資格制度・倫理に関する専門的知識を得る。 臨床心理学に基づく人間理解・支援の方法に関する基礎的知識を修得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理学の定義	テキストを読んで予習をする
	2	臨床心理学の独自性	テキストを読んで予習をする
	3	臨床心理学の歴史と成立Ⅰ	テキストを読んで予習をする
	4	臨床心理学の歴史と成立Ⅱ	テキストを読んで予習をする
	5	心理職の養成	各自の体験をまとめておく
	6	心理職の課題	各自の課題をまとめておく
	7	臨床心理学における人間理解の方法Ⅰ	テキストを読んで予習をする
	8	臨床心理学における人間理解の方法Ⅱ	中間レポート作成
	9	臨床心理学に基づく援助の方法Ⅰ	テキストを読んで予習をする
	10	臨床心理学に基づく援助の方法Ⅱ	中間レポート作成
	11	臨床心理学に基づく実践活動	実践活動に関するレポート
	12	臨床心理学に基づく研究活動	研究活動に関するレポート
	13	臨床心理学に基づく専門活動	専門活動に関するレポート
	14	心理職の職業倫理	事前課題をまとめておく
	15	臨床心理学の課題と展望	各自で課題についてまとめておく
	16	まとめ	最終レポート作成
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 下山晴彦（著）「これからの臨床心理学」東京大学出版会 大塚義孝（編）臨床心理学全書1「臨床心理学原論」 誠信書房 下山晴彦・丹野義彦（編）講座臨床心理学1「臨床心理学とは何か」東京大学出版会		
	学びの手立て 常に問題意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を確立すること。 教員・他の院生とのディスカッションに積極的に参加すること。		
	評価 討論への参加態度や発言内容（30%），提出された中間レポート（30%），期末最終レポート（40%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門的知識・技能を高めてゆくために、引き続き「臨床心理学特論Ⅱ」を履修すること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学特論Ⅱ	後期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1 年	研究室 13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 臨床心理支援の対象者の理解とそれぞれに対する支援について基本的考え方、理論を習得する。	メッセージ 様々なクライアントに対する臨床心理学・心理学の知見に基づく理解と支援の基本的考え方について学びます。
	到達目標 臨床心理学の人間理解ができる。 学内外の実習において、クライアントに対する臨床心理学・心理学的観点から見立てや支援方針を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 : オリエンテーション 第2回 : 臨床心理学的支援の独自性 第3回～第5回 : 不安を抱えるクライアントの理解と心理臨床的支援 第6回～第8回 : うつ・抑うつを抱えるクライアント理解と心理臨床的支援 第9回～第11回 : 統合失調症を抱えるクライアント理解と心理臨床的支援 第12回～第14回 : ストレスマネジメント 第15回 : 臨床心理学の定義と独自性
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する
	学びの手立て 臨床心理領域で設定されているそれぞれの科目を学内外の実習と結び付け、常に実践を意識して学んでほしい。
	評価 ①ディスカッションへの取り組み方 50％ ②リフレクションシート・課題の提出状況および内容 50％

学びの継続	次のステージ・関連科目 臨床心理学領域の領域必修科目、選択科目、学内外の実習につながる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理基礎実習	通年	火 6・7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・野村 れいか	1 年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学内外での臨床心理実習を行う為に必要となる、心理臨床の倫理や、臨床心理面接、臨床心理査定などの基礎的知識と基礎的技能の習得を目的とする。ロールプレイング、ディスカッションを通して体験的に学習する。	メッセージ ディスカッションやロールプレイングを通して、心理臨床実践の基礎を身につけます。臨床実践の力は、話を聞くだけでは身につけません。主体的に、積極的にディスカッションや実習、課題に取り組んで下さい。臨床の実践家としてクリアすべき課題がこの講義を通して見つかるかもしれません。まずはそれに向き合い、受け入れることからスタートです。
	到達目標 ①心理臨床実践における倫理的態度を身につける。 ②マイクロカウンセリングの基本的かかわり技法を用いて面接ができる。 ③インテーク報告書が書ける。 ④スーパーバイザーや教員を使って自分自身や自分の面接を振り返ることができる。 ⑤これまで学んできた知識や経験をもとにしてディスカッションで自分の意見を述べるができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	2	心理臨床実践の基本事項①倫理 1	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	3	心理臨床実践の基本事項②倫理 2	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	4	心理臨床実践の基本事項③倫理 3	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	5	心理臨床実践の基本事項④面接構造	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	6	心理臨床実践の基本事項⑤スーパーヴィジョンとその活用	調べ学習・レジメ作成・発表準備
	7	心理臨床の面接の基本的態度	リフレクションシート作成
	8	心理臨床面接の応答技法①関わり行動	配布資料の復習
	9	関わり行動のロールプレイング	リフレクションシート作成
	10	心理臨床面接の応答技法②開かれた質問・閉ざされた質問	配布資料の復習
	11	開かれた質問・閉ざされた質問のロールプレイング	リフレクションシート作成
	12	心理臨床面接の応答技法③はげまし・いいかえ	配布資料の復習
	13	はげまし・いいかえのロールプレイング	リフレクションシート作成
	14	心理臨床面接の応答技法④感情の反映	配布資料の復習
	15	感情の反映のロールプレイング	リフレクションシート作成
	16	心理臨床面接の応答技法⑤要約	配布資料の復習
	17	要約のロールプレイング	リフレクションシート作成
	18	試行カウンセリング①	リフレクションシート作成
	19	試行カウンセリング②	リフレクションシート作成
	20	インテーク面接について	配布資料の復習
	21	インテーク面接の基本的事項	配布資料の復習
	22	インテーク面接の基本的事項	配布資料の復習
	23	インテーク面接ロールプレイング①	リフレクションシート作成
	24	インテーク面接ロールプレイング②	リフレクションシート作成
	25	インテーク面接ロールプレイング③	リフレクションシート作成
	26	見立てと方針・ケースフォーミュレーション①	課題・配布資料の復習
	27	見立てと方針・ケースフォーミュレーション②	課題・配布資料の復習
	28	見立てと方針・ケースフォーミュレーション③	課題・配布資料の復習
	29	事例検討①	リフレクションシート作成
	30	事例検討②	リフレクションシート作成
	31	まとめ	まとめのレポート

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜紹介する 適宜紹介する</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>心理臨床実践の学びのためには、自分の認知・行動・感情を振り返り、言語化して表現するトレーニングが必要とされる。その際、乗り越えなければならない自分自身の課題も見つかると思うが、それに向き合い続けなければならない。心理的負担を伴う作業ではあるが、スーパーバイザーや教員を使い、支えを得ながら、取り組んでほしい。</p> <p>いくらまじめに取り組んでいても、受け身的な態度では実践力は身につかない。積極的に発言し、行動し、多くの経験を積んでほしい。</p>
	<p>評価</p> <p>①ディスカッション・ロールプレイング実習への取り組み方（40%） ②リフレクションシート・課題の提出状況（30%） ③学外の実習評価（30%） を総合的に判断し評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「臨床心理実習」や附属心理相談室のケース陪席、ケース担当、学外のボランティア活動などで学んだことを実践し、常に振り返りを行う。</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理査定演習	後期	月 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	1 年	5 号館424-2研究室 h. imura@okiu. ac. jp（@は半角に変える）	

学びの準備	ねらい 臨床心理査定の専門技法である心理検査のうち、主に投映法を取り上げ、適切な実施方法、結果の整理、分析・解釈等について体験的に学ぶ。その上で、所見や報告書の書き方、テストバッテリーの組み方、心理的援助に結びつく査定のあり方等について総合的に学習する。	メッセージ 基礎的な心理査定技法（心理的アセスメント）については、修得していることを前提で授業を進めるので、復習しておくこと。また、指定された課題は必ず予習して臨むこと。
	到達目標 投映法心理検査の実施，解釈，所見・報告書の作成に必要な専門的知識と技能を身につける。 心理的援助に役立つ臨床心理査定を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	臨床心理査定概論	授業の予復習
	2	心理面接等による臨床心理査定	授業の予復習
	3	心理検査による臨床心理査定（主に投映法について）	授業の予復習
	4	心理検査Ⅰ－① 投映法心理検査（描画） 実施方法と理論的背景	検査の分析
	5	心理検査Ⅰ－② 投映法心理検査（描画） 結果のまとめと解釈	結果のまとめ作成
	6	心理検査Ⅰ－③ 投映法心理検査（描画） 所見と心理的援助	レポート（所見・報告書）作成
	7	心理検査Ⅱ－① 投映法心理検査（T A T） 実施方法と理論的背景	検査の分析
学びの実践	8	心理検査Ⅱ－② 投映法心理検査（T A T） 結果のまとめと解釈	結果のまとめ作成
	9	心理検査Ⅱ－③ 投映法心理検査（T A T） 所見と心理的援助	レポート（所見・報告書）作成
	10	心理検査Ⅲ－① 投映法心理検査（ロールシャッハ） 実施方法と理論的背景	検査の採点・分析
	11	心理検査Ⅲ－② 投映法心理検査（ロールシャッハ） 結果のまとめと解釈	結果のまとめ作成
	12	心理検査Ⅲ－③ 投映法心理検査（ロールシャッハ） 所見と心理的援助	レポート（所見・報告書）作成
	13	臨床心理査定の実際① テストバッテリー	授業の予復習
	14	臨床心理査定の実際② 総合所見の書き方	授業の予復習
	15	臨床心理査定の実際③ 心理検査を活用した心理的支援	授業の予復習
	16	最終課題レポート作成・提出	最終課題レポート作成
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で紹介する。		
学びの手立て	基礎的な心理査定技法（心理的アセスメント）は修得していることを前提で授業を進める。 指定された課題は必ず仕上げてから授業に臨むこと。		
	評価 討論への参加態度や発言内容（20％），提出されたレポート（20％×4回）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は「心理的アセスメントに関する理論と実践」であり，必ず履修すること。
-------	---

※ポリシーとの関連性 臨床心理面接・査定の実践的に高めるための科目である。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理実習 B	通年	水 7	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦・井村 弘子・平山 篤史・野村 れいか	1 年	上田まで y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 一つ一つの事例を様々な視点から検討することを通して、心理的問題を抱える人の環境、歴史、特性に応じた援助が展開できるようにする。	メッセージ 【実務経験】担当者は全員、臨床心理士としての経験を持つ者である。実際の現場で行われるのと同じようなケースカンファレンスを通して心理師としての目を養ってほしい。
	到達目標 来談者の個別性を理解し、その人への適切な援助を柔軟に展開できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、	
	2	事例検討①	事例報告資料の作成
	3	事例検討②	事例報告資料の作成
	4	事例検討③	事例報告資料の作成
	5	事例検討④	事例報告資料の作成
	6	事例検討⑤	事例報告資料の作成
	7	事例検討⑥	事例報告資料の作成
	8	事例検討⑦	事例報告資料の作成
	9	事例検討⑧	事例報告資料の作成
	10	事例検討⑨	事例報告資料の作成
	11	事例検討⑩	事例報告資料の作成
	12	事例検討⑪	事例報告資料の作成
	13	事例検討⑫	事例報告資料の作成
	14	事例検討⑬	事例報告資料の作成
	15	事例検討⑭	事例報告資料の作成
	16	事例検討⑮	事例報告資料の作成
	17	事例検討⑯	事例報告資料の作成
	18	事例検討⑰	事例報告資料の作成
	19	事例検討⑱	事例報告資料の作成
	20	事例検討⑲	事例報告資料の作成
	21	事例検討⑳	事例報告資料の作成
	22	事例検討㉑	事例報告資料の作成
	23	事例検討㉒	事例報告資料の作成
	24	事例検討㉓	事例報告資料の作成
	25	事例検討㉔	事例報告資料の作成
	26	事例検討㉕	事例報告資料の作成
	27	事例検討㉖	事例報告資料の作成
	28	事例検討㉗	事例報告資料の作成
	29	事例検討㉘	事例報告資料の作成
	30	事例検討㉙	事例報告資料の作成
	31		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>他者の報告についても積極的に質問し、コメントを述べること。自分のケースを報告することで理解がさらに深まるだけでなく、他者のケースを聞き、想像することが、ケース理解の力を高めることになる。</p>
	<p>評価</p> <p>毎回のカンファレンスにおける積極性（質問、コメント）・・・40％、自分のケースの報告書の内容・・・60％によって評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>心理実践実習Ⅳ、臨床心理面接特論</p>

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理面接特論	後期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	1 年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 近年世界的に最も用いられることが多い認知行動療法に関わる面接技法を中心に学習する。また精神分析的アプローチ、クライアント中心療法などの各派との違いと各派に共通するものを探り、最近の流れである心理療法の統合について理解していく。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験を踏まえ、現場で実際に使える、役に立つ面接技能を習得することを目指す。毎回、積極的に質問・コメントをすること。
	到達目標 将来出会うであろう様々なクライアントに対して、最も有効なアプローチ法を見出せるようにする。	

学びの実践	<div> <div>学びのヒント</div> <div>授業計画</div> </div>		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の復習
	2	認知行動療法の基礎としての学習・問題行動・不適応行動	配布資料の復習
	3	行動療法の主な技法：系統的脱感作、曝露反応妨害法、応用行動分析	配布資料の復習
	4	認知行動療法基礎理論、抑鬱に対する認知行動療法①	配布資料の復習
	5	抑鬱に対する認知行動療法②	配布資料の復習
	6	〃 ③	配布資料の復習
	7	〃 ④	配布資料の復習
	8	〃 ⑤	配布資料の復習
	9	他のアプローチとの比較：来談者中心療法	配布資料の復習
	10	〃 ：精神力動的アプローチ	配布資料の復習
	11	〃 ：システムズ・アプローチ	配布資料の復習
	12	〃 ：折衷的アプローチ	配布資料の復習
	13	〃 ：動機づけ面接法	配布資料の復習
	14	慢性疾患、視覚障害者、高次脳機能障害者に対するアプローチ	配布資料の復習
	15	心理療法の統合：多理論統合モデル	配布資料の復習
	16	レポート	
学びの手立て	<div> <div>テキスト・参考文献・資料など</div> <div> <div>参考文献：</div> <div>「心理療法の諸システム 多理論統合的分析」 プロチャスカ著 津田彰他監訳 金子書房 2010</div> <div>「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 風間書房 2011</div> <div>「高次脳機能障害のための認知リハビリテーション」 ソールバーク・マティアー著 尾関誠・上田幸彦監訳 協同医書出版社 2012</div> </div> </div>		
	<div> <div>学びの手立て</div> <div>自分の臨床経験と照らし合わせながら講義を聴くこと。また紹介した文献には必ず目を通すこと。</div> </div>		
評価			
	<div> <div>評価</div> <div>毎回の講義でのディスカッションへの参加状況・・・5 0 %、最終レポート・・・5 0 %によって評価する。</div> </div>		

学びの継続	<div>次のステージ・関連科目</div> <div>心理実践実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ</div>
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	老年健康科学特論	通年	水 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ドナルド・クレイグ・ウィルコックス	1 年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備	ねらい 本授業は、健康・疾病および加齢に関する項目について学ぶことを目的とする。健康管理システムにおける福祉の役割、健康と加齢に関する社会的要因、高齢者がもたらす社会経済的影響に対する政策について学ぶ。主に、健康増進とリスク除去の方策のほか、健康維持アプローチと高齢者特有の健康問題にも焦点を当てる。	メッセージ 本講義では高齢期における健康をテーマにした内容で今までの知識を学ぶ事や共有し複数ある考え方を批判的にとらえる事を通して考えていく。履修する各院生の専門分野も取り入れ関連させて講義を展開することも考えている。各院生は本講に関連する内容を見つけ講義の材料とすることでより発展した内容にすることもできるので、幅広い見識を持ち情報の収集に取り組んで欲しい。
	到達目標 高齢期における健康観、疾病などについて考え、自分の考えを持ち他者の考えを批判的にとらえながらより良い高齢期における様々な状況を考えていくことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	年間の計画を確認する
	2	健康長寿(Healthy Aging)の定義	健康長寿について調べておく
	3	健康長寿とソーシャルワーク	健康長寿と福祉の関係性を把握する
	4	地域における保健活動と健康長寿	公衆衛生について調べる
	5	高齢者の健康に関わる社会的要因	高齢者の健康観を調べておく
	6	高齢者の疾病について	代表的な疾病について調べる
	7	加齢に伴う身体的健康問題	健康問題について調べる
	8	加齢に伴う精神的健康問題	精神的問題について調べる
	9	長期介護について	長期介護の問題点を考えておく
	10	介護者のストレスと健康	介護者のストレスについて調べる
	11	終末期ケアについて	終末期ケアや施設を調べておく
	12	スピリチュアリティと健康	精神的な健康について調べる
	13	ソーシャルワーク実践	福祉的实践について調べる
	14	健康増進と予防について	予防方法について調べておく
	15	前期のまとめ	今までの内容をまとめておく
	16	後期オリエンテーション	前期の流れと後期の計画の確認
	17	文化および民族と健康	文化的な側面を調べておく
	18	世界の社会的弱者の健康について	世界の高齢者問題を把握しておく
	19	高齢者の健康政策のマクロ的影響	健康施策を調べてまとめる
	20	沖縄における長寿の課題 1	沖縄県の長寿の課題を調べる
	21	沖縄における長寿の課題 2	沖縄県の長寿の課題を調べる
	22	沖縄における長寿の課題 3	沖縄県の長寿の課題と対応を調べる
	23	沖縄における長寿の課題 4	沖縄県の長寿の課題と対応を調べる
	24	沖縄における長寿の課題 5	沖縄県の長寿の課題と対応を調べる
	25	世界の健康長寿の課題 1	世界の健康観について調べる
	26	世界の健康長寿の課題 2	世界の健康長寿への考え方を調べる
	27	世界の健康長寿の課題 3	世界の健康長寿への対応を調べる
	28	世界の健康長寿の課題 4	世界の健康長寿の課題を調べる
	29	世界の健康長寿の課題 5	健康長寿の課題と対応を調べる
	30	後期のまとめ	全体を通しての内容をまとめる
	31	全体のまとめ	全体を通した内容をまとめる

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて資料を配布する。 近藤克典『健康格差社会～何が心と健康を蝕むのか～』医学書院, 2005. Berkman B. 『Handbook of Social Work in Health and Aging』Oxford Univ Press, 2006. その他、適宜、論文等を紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修する各院生の専門分野もとりにいれ関連させて講義を展開することも考えている。 各院生は関連する内容を見つけ講義の材料とすることでより発展した内容にすることもできるので、幅広い見識を持ち情報の収集に取り組んで欲しい。</p>
	<p>評価</p> <p>出席(40%)・クラス討論やクラス内での発表(30%)・提出課題の内容(30%)で評価を行う。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>高齢期をテーマにした他の特論科目も受講して欲しい。これらの内容をふまえ福祉について考えていって欲しい。</p>